

【Word ファイル設定】

- ①サイズは「A4」、印刷の向きは「縦」、文字列の方向は「横書き」とする。
- ② 余白は適宜設定すること。なお、テンプレートの余白設定は「上：30 mm・下：25 mm・左右：25 mm・とじしろ：0」となっている。
- ③ 1 ページの文字数、行数は「40 字×40 行」とし、1 ページの合計字数は「1,600 字」とする。
- ④ 文字フォントは「MS 明朝」、サイズは「10.5 ポイント」とする。
- ⑤ **本論全体の文字数及び小問ごとの文字数を明記する。**

※ 文字数カウント方法

| 統計: | |
|---|----|
| ページ数 | 1 |
| 単語数 | 84 |
| 文字数 (スペースを含めない) | 87 |
| 文字数 (スペースを含める) | 87 |
| 段落数 | 1 |
| 行数 | 3 |
| 半角英数の単語数 | 3 |
| 全角文字 + 半角カタカナの数 | 81 |
| <input type="checkbox"/> テキスト ボックス、脚注、文末脚注を含める(E) | |
| 閉じる | |

Word 上部タブ「校閲」→ 文字校正 → 文字カウント →
文字数(スペースを含めない) に表示される数字を記載

※単語数でないので注意！

【研究報告書の構成】

- ①本論、②出典・参考文献でページを分けて明確に区別し、①本論にはページ番号を付けること。
- なお、②出典・参考文献を記載する際には、出典・参考文献に関する注意事項 PDF を厳守すること。特に、引用箇所は、「」(引用符カッコ) でくり、出典を明確(頁数も記載)にするといった引用ルールを無視した場合、無断引用(剽窃行為)となり『不正行為』として処罰対象となるので注意すること。

- ・ **「本論」及び出典、参考文献が記載されたファイルのみ**を提出すること。
- ・ **目次は作成しない**こと。
- ・ **本論→出典及び参考文献の順**にページを分けること。
出典及び参考文献は本論の最終ページの次ページ以降にのみすべて記載すること。
＜参考情報＞ ページ区切りの方法 ※外部サイト [word ファイルにおけるセクション分けの方法について](#)
- ・ データファイルは **WORD 形式(拡張子.doc 又は.docx)** で作成すること。
- ・ 本論データファイル中には「**補習生カード番号**」・「**氏名**」を記載しないこと。
- ・ **ページ番号は本論のみに付す**こと。(引用・参考文献セクションにはページ番号は不要)
- ・ **章、節の区分、段落付けは明確**にすること。
- ・ 本論における文字数には、「**テーマ表記**」、「**図表等**」は含めない。
- ・ 引用箇所は「**」(引用符)** でくり、出典元を明らか(ページ数も記載)にすること。
→注意：本論と同じページに出典及び参考文献を記載するのではなく、本論の後に記載する。
※**出典と参考文献は別のものです。**
 - ・**出典**→ 資料の原文をそのまま使用している
 - ・**参考文献**→ 意見の記述に当たり、参考にした資料

出典については使用順、参考文献の記載順は下記例示に従ってください。

- ・ 出典、参考文献の記載漏れがないように特に注意すること。
- ・ 参考文献、出典について記載のない場合においても、**巻末に「参考文献なし」、「出典なし」と記載**すること。
- ・ 参考文献や出典を明記しない場合、論文の盗用とみなされる場合がある。
- ・ 提出にあたっては、誤字等がないように十分確認すること。
- ・ 形式不備があった場合は、自動的に評価点から減点されるので注意すること。
- ・ 他人の論文を複写（丸写しやコピーアンドペースト等）するなどの**不正行為を行ったものは、相応のペナルティを科す**。

【課題研究形式減点方針】

| | |
|---------------|--|
| 構成体裁 | <ul style="list-style-type: none">・設定 NG、1 ページ字数不足（例：40 字×38 行）・設定 NG、1 ページ字数過剰（例：40 字×42 行）・必要な構成が欠けている・不要な構成が含まれている（表紙・目次・氏名等）・本論にページ番号が付されていない・本論以外にページ番号が付されている |
| 出典記載 | <ul style="list-style-type: none">・出典の記載が無い・出典が無い場合の「出典なし」が未記載・引用箇所が明確でない（引用符が無い等）・文献ページ数が未記載 |
| 参考文献記載 | <ul style="list-style-type: none">・参考文献が無い場合の「参考文献なし」が未記載・参考文献が 50 音順に並んでいない・出典・参考文献が併せて書かれている |
| その他 | <ul style="list-style-type: none">・誤字脱字等が多い等 |

< 出典に関する注意事項 >**1. 注意事項**

- (1) 引用箇所は、「」(引用符カッコ)でくくり、出典を明確(頁数も記載)にすること。また、ウェブサイトからの引用の場合は、そのアドレス(URL)とアクセスした日を記載する。
- (2) 引用・注記の表示は著者名、発表年と頁を()で囲んで入れる。
- (3) 引用や注記をする場合には、必ず出典(出所)を明らかにする。
- (4) 法令、通達、基準、指針等公になっているものは出典に記載する必要はない。

2. 記載方法

- (1) 日本語の場合は、単行本・雑誌名は『』で、論文名は「」でくくる。一方、欧文の場合は、単行本は書名を、論文の場合は雑誌名を、それぞれイタリック体で記載する。
- (2) 共著の場合は、カンマで区切って記す(東京太郎, 東海次郎, 近畿三郎, 九州四朗)か、最初の1人の著者名のみを記し後ろに「ほか」と記す(東京太郎ほか)
- (3) 単行本は次の順序で表記する。なお、発行年が同じものが複数存在する場合、発行年に a、b…をつける。

| | |
|-----|-----------------------|
| 単行本 | 著者(编者)名、発行年、『書物名』、発行所 |
|-----|-----------------------|

- (4) 論文は次の順序で表記する。なお、発行年が同じものが複数存在する場合、発行年に a、b…をつける。

| | |
|----------------|--|
| 論文 | 著者名、発行年、「論文名」『収録書物名(または雑誌名)』巻数・号数、掲載頁 |
| 論文 (Webページ) | 著者名、「論文名」サイトの運営団体名、アドレス(URL)、(最終アクセス年月日) |

- (5) 紀要や雑誌の論文・記事は次の順序で表記する。

| | |
|-----------------|--|
| 紀要や雑誌 の論文・記事 | 著者名、「論文・記事のタイトル」、『雑誌名』、巻数・号数、発行年月、(該当ページ: 出典の場合) |
|-----------------|--|

- (6) 新聞記事は、次の順序で表記する。

| | |
|------------------|---|
| 新聞記事 | 署名記事の場合の著者名、「記事のタイトル」、『新聞紙名』発行年月日、朝夕刊の別、(該当面数: 出典の場合) |
| 新聞記事 (Webページ) | 新聞社名、『記事のタイトル』、アドレス(URL)、(最終アクセス日年月日) |

- (7) Web ページの場合は次の順序で表記する。

| | |
|--------|---|
| Webページ | 著者名、「Webページのタイトル」、アドレス(URL)、(最終アクセス年月日) |
|--------|---|

3. 記載例

- (1) 「」(カッコ)で直接引用する場合
…であるが、「法22 条4 項は、企業会計を意味する」(長嶋(2016)、199 頁)ことになる。
- (2) 要約する場合
長嶋(2016)によると、……という解釈になる(193-195 頁)。
- (3) 脚注で引用や補足する場合
税法は、情報提供に重きをおく企業会計とは、ますます乖離するであろう⁽⁸⁾。
注(8) 鈴木(雅)(2015)、202 頁参照。
※鈴木雅彦と鈴木茂雄の2 名を参考文献に挙げている場合は、(雅)か(茂)で区別する。

※著者名等はすべて架空のものです。

【単行本の場合】

- (1) 中村花子(1998)『アメリカ管理会計の理論』経営図書出版。
- (2) 山下仁義監訳、斎藤 隆・西崎真一共訳(2008)『監査人の責任としての透明性』東京会計書籍。

【論文の場合】

- (1) 青木太郎(2009)「企業会計の利害調整機能—会社法との比較を中心に—」『会計ジャーナル』第66 巻第1 号、32-47 頁。
- (2) 加藤 登(2015a)「企業会計と自治体会計の相違」『経理実務』第68 号、15-26 頁。
- (3) 加藤 登(2015b)「自治体監査の特徴」『自治体会計研究』第25 巻第3 号、35-38 頁。

【欧文の場合】

- (1) Abcde, Fghij K. (19xx), *Lmn Opqrs-T Study in the Uvwxyz*, Zyx Smith.
- (2) Edcba, Jihgf T. , S.Rqpo Lmn, Zyxwvu A. Bcde (19xx), Auditors and the XXX of YYY, *The Journal of Zzzz* Vol. 23, No. 4, pp. 55-66.
- (3) Xyz Institute of Certified Public Accountants (XICPA), The XXX Committee on Financial Reporting(19xx), *Improving Business XXX Reporting : Information Needs of Vwxyz Investors*. Xyz Institute of Certified Public Accountants (※川本健夫・浜本海彦共訳 (200x) 『〇〇の改善報告』太陽書店) .

【Webページの場合】

青山花子「景気後退リスクを抱える国」 <https://aabbcc/> (最終アクセス年月日 : 2022年4月1日)

【新聞記事(webページ)の場合】

NK新聞『AB社、非上場化に向け検討』 <https://aabbcc/>、最終アクセス日 : 2022年4月1日

※著者名、論文名、発行所等はすべて架空のものです。

<参考文献に関する注意事項>

1. 注意事項

- (1) 論文の最後に掲載する参考文献の一覧は、日本語の文献(著者氏名の五十音順)、欧文の文献(ファミリーネームのアルファベット順)の順に記載する。
- (2) 参考文献について記載のない場合においても、巻末に「参考文献なし」と記載すること。
- (3) 参考文献を明記しない場合、論文の盗用とみなされる場合があるので注意すること。
- (4) ウィキペディアや専門学校のテキストは参考文献として認めない。
- (5) 法令、通達、基準、指針等公になっているものは参考文献に記載する必要はない。

2. 記載方法

- (1) 日本語の場合は、単行本・雑誌名は『 』で、論文名は「 」でくる。一方、欧文の場合は、単行本は書名を、論文の場合は雑誌名を、それぞれイタリック体で記載する。
- (2) 共著の場合は、カンマで区切って記す(東京太郎, 東海次郎, 近畿三郎, 九州四朗)か、最初の1人の著者名のみを記し後ろに「ほか」と記す(東京太郎ほか)
- (3) 単行本は次の順序で表記する。なお、発行年が同じものが複数存在する場合、発行年に a、b…をつける。

| | |
|-----|-----------------------|
| 単行本 | 著者(编者)名、発行年、『書物名』、発行所 |
|-----|-----------------------|

- (4) 論文は次の順序で表記する。なお、発行年が同じものが複数存在する場合、発行年に a、b…をつける。

| | |
|----------------|---|
| 論文 | 著者名、発行年、「論文名」『収録書物名(または雑誌名)』巻数・号数、掲載頁 |
| 論文 (Webページ) | 著者名、「論文名」Webページの運営団体名、アドレス(URL)、最終アクセス年月日 |

- (5) 紀要や雑誌の論文・記事は次の順序で表記する。

| | |
|-----------------|-----------------------------------|
| 紀要や雑誌の 論文・記事 | 著者名、「論文・記事のタイトル」、『雑誌名』、巻数・号数、発行年月 |
|-----------------|-----------------------------------|

- (6) 新聞記事は、次の順序で表記する。

| | |
|------------------|---|
| 新聞記事 | 署名記事の場合の著者名、「記事のタイトル」、『新聞紙名』、発行年月日、朝夕刊の別、 |
| 新聞記事 (Webページ) | 新聞社名、『記事のタイトル』、アドレス(URL)、最終アクセス年月日 |

- (7) Web ページの場合は次の順序で表記する。

| | |
|--------|---|
| Webページ | サイトの運営団体名、Webページのタイトル、アドレス(URL)、最終アクセス年月日 |
|--------|---|

3. 記載例

【単行本の場合】

- (1) 中村花子 (1998) 『アメリカ管理会計の理論』経営図書出版。
- (2) 山下仁義監訳、斎藤 隆・西崎真一共訳 (2008) 『監査人の責任としての透明性』東京会計書籍。

【論文の場合】

- (1) 青木太郎(2009)「企業会計の利害調整機能－会社法との比較を中心に－」『会計ジャーナル』第66巻第1号、32-47頁。
- (2) 加藤 登(2015a)「企業会計と自治体会計の相違」『経理実務』第68号、15-26頁。
- (3) 加藤 登(2015b)「自治体監査の特徴」『自治体会計研究』第25巻第3号、35-38頁。

【欧文の場合】

- (1) Abcde, Fghij K. (19xx), *Lmn Opqrs-T Study in the Uvwxyz*, Zyx Smith.
- (2) Edcba, Jihgf T. , S.Rqpo Lmn, Zyxwvu A. Bcde (19xx), Auditors and the XXX of YYY, *The Journal of Zzzz* Vol. 23, No. 4, pp. 55-66.
- (3) Xyz Institute of Certified Public Accountants (XICPA), The XXX Committee on Financial Reporting(19xx), *Improving Business XXX Reporting : Information Needs of Vwxyz Investors*. Xyz Institute of Certified Public Accountants (※川本健夫・浜本海彦共訳 (200x) 『〇〇の改善報告』太陽書店) .

【Webページの場合】

青山花子「景気後退リスクを抱える国」 <https://aabbcc/> (最終アクセス年月日 : 2022年4月1日)

【新聞記事(webページ)の場合】

NK新聞『AB社、社株式の非上場化に向けた検討』 <https://aabbcc/>、(最終アクセス年月日 : 2022年4月1日)

※著者名、論文名、発行所等はすべて架空のものです。

以上